

# 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



特別史跡・特別名勝  
鹿苑寺（金閣寺）庭園

2022年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、参道改修工事に伴う特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

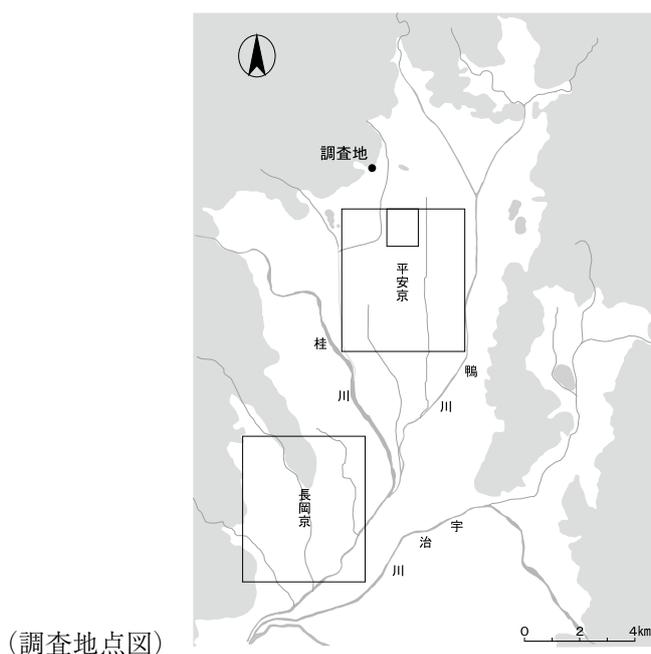
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園                          |
| 2 調査所在地  | 京都市北区金閣寺町1番地                                  |
| 3 委 託 者  | 宗教法人 鹿苑寺 代表役員 有馬頼底                            |
| 4 調査期間   | 2020年6月22日～2020年8月4日                          |
| 5 調査面積   | 38㎡   |
| 6 調査担当者  | 近藤章子  |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「原谷」・「衣笠山」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）                |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                                |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。             |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                          |
| 12 本書作成  | 柏田有香  |
| 13 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。     |



(調査地点図)

# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 位置と環境	3
(2) 周辺の調査	4
3. 遺構・遺物	5
(1) 基本層序	5
(2) 1区	6
(3) 2区	6
(4) 3区	6
(5) 4区	7
(6) 5区	7
(7) 6区	7
4. ま と め	8

# 図 版 目 次

図版1	遺構	調査区配置図 (1 : 800)
図版2	遺構	1区実測図 (1 : 80、1 : 20)
図版3	遺構	2区・3区実測図 (1 : 50)
図版4	遺構	4区実測図 (1 : 50)
図版5	遺構	5区実測図 (1 : 50)
図版6	遺構	1 1区南半全景 (東から) 2 1区北半全景 (北東から) 3 2区全景 (東から)
図版7	遺構	1 3区全景 (北から) 2 4区全景 (南から) 3 5区全景 (南から) 4 6区全景 (東から)

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査前全景（西から）	2
図3	作業状況（東から）	2
図4	基本層序柱状図（1：30）	5
図5	6区実測図（1：50）	7
図6	「北山鹿苑寺境内之圖」	9
図7	「北山鹿苑寺絵図」	9

## 表 目 次

表1	遺構概要表	5
表2	遺物概要表	6

# 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園

## 1. 調査経過

調査地は、特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園に位置する。鹿苑寺（金閣寺）の黒門から総門に至る参道の舗装工事が計画され、参道下層の遺構の状況を確認するために発掘調査を実施した。参道が江戸時代の絵図には描かれていることから、その変遷を明らかにすることを主目的とした。

調査は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が鹿苑寺（金閣寺）から委託を受け、京都府教育庁指導部文化財保護課（以下「府保護課」という）と京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「市保護課」という）の指導のもと実施した。

調査区は、総門から黒門まで約150mの参道に、およそ40mおきに4箇所（1・2・4・5区）、さらに参道から不動堂道に取り付く南北道路に1箇所（3区）を設定した（図1、図版1）。

調査は、2020年6月19日から準備工を開始し、まず、1・2区南半部と3区に着手した。次いで、1区を反転して北半部、4・5区の北半部の調査を行った。2・4・5区に関しては、参道が狭いこと、各種の配管が埋設されていることが確認されたため、反転しての調査は行わなかった。

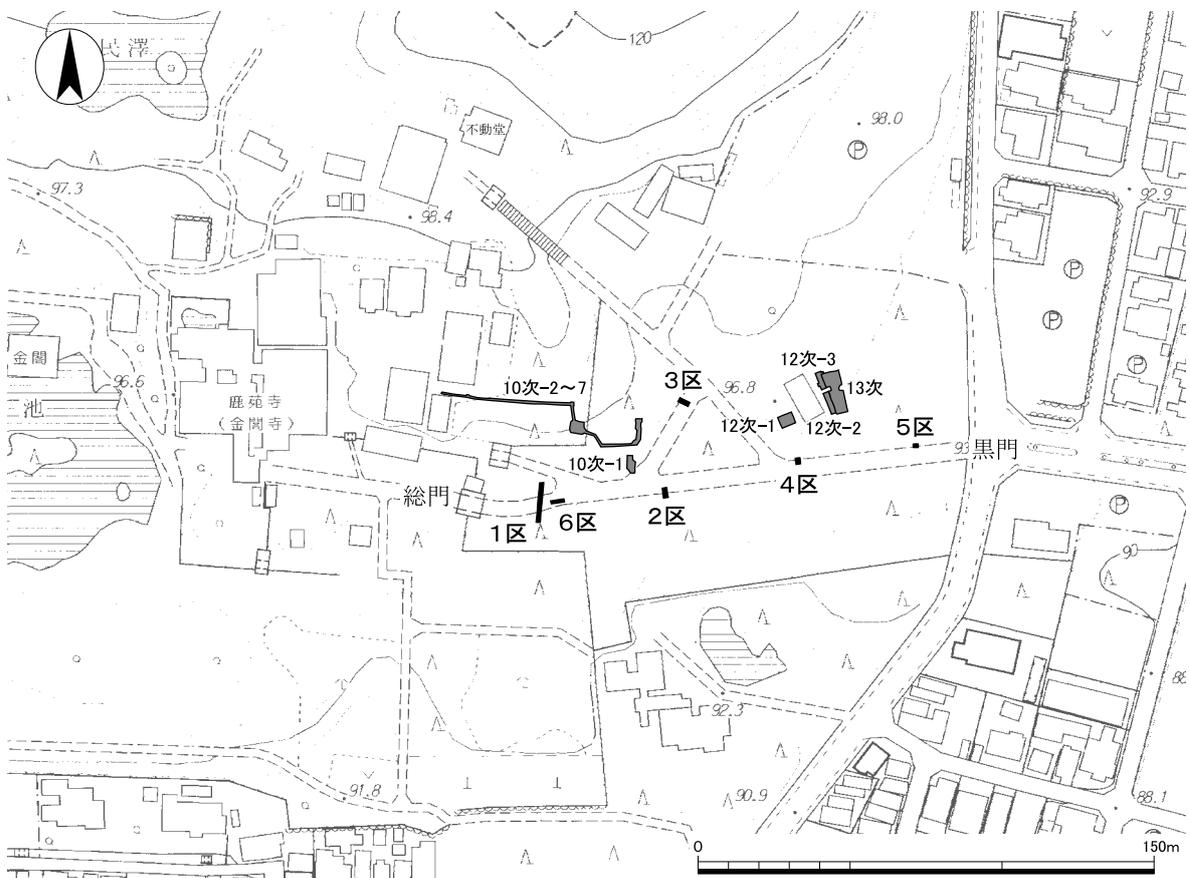


図1 調査位置図（1：2,500）



図2 調査前全景（西から）



図3 作業状況（東から）

また、8月2・3日には、追加調査として、1区の東側に6区を設定して調査を実施した。調査は、重機により現代層を掘削し、遺構検出および掘り下げを人力によって行った。検出した遺構は、図面作成・写真撮影などの記録作業を行った。調査中の排土は各調査区周辺に仮置きした。

6月29日には1区南半部と3区、7月21日には1区北半部と2・4・5区、8月4日には6区の埋め戻し作業を行った。埋め戻しに際しては、タンピングランマー・プレートランマーを併用し、転圧作業を行った。

調査の結果、1・2・4・5・6区では、江戸時代と考えられる路面を検出し、各調査区で江戸時代と室町時代の整地層を確認した。

## 2. 位置と環境

### (1) 位置と環境

調査地は、「特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園」の黒門から総門への参道にあたる。黒門は、現在の正面入口であり、境内の東側に位置する。そこから西に向かって参道が延び、鹿苑寺の総門に至る。

鹿苑寺は、京都盆地北西の大文字山と衣笠山に挟まれた谷地に位置し、北から南へ下がる傾斜地を造成して堂舎や園池が配置されている。境内南東部に位置する現在の参道付近は平坦に均されており、緩やかな東下がりの地形となっている。

現在の鹿苑寺の寺域は、平安時代に神祇伯家の所有であったものを、鎌倉時代になって公家の藤原公経が伯家より譲り受けたものである。公経は、そこに北山第を造営し、元仁元年（1224）には北山堂を供養して西園寺と号し、家名も西園寺家というようになった。北山第には、西園寺（本堂）のほか、多数の堂舎や公経の寝殿などが建ち並び、藤原道長が造営した法成寺を凌ぐ規模を誇ったとされる<sup>1)</sup>。しかしこの北山第も、西園寺家の衰退に伴い南北朝時代には荒廃する。

その後、北山第は、応永年間に河内国の領地と引き替えに西園寺家から足利義満に譲られた。応永元年（1368）に室町幕府三代将軍となった義満は、応永元年（1394）には義持に将軍職を譲って太政大臣となり、翌年には出家するが、依然として権勢を保持しており、応永4年（1397）に北山殿の造営に着手し、翌年に北山殿に移徙して以降、応永15年（1408）に義満が没するまで、北山殿は政治・文化の中心として栄えたとされる。北山殿は、義満の北御所と、夫人日野康子の南御所、崇賢門院の御所の三つによって構成されていた。

応永26年（1419）に夫人康子が没したのち、北山殿の建物の大半は解体される<sup>2)</sup>が、足利義持によって、夢窓疎石を開山とし、残された舍利殿（金閣）を核として鹿苑寺が創建される。鹿苑寺には、舍利殿のほか護摩堂、懺法堂、紫宸殿、天鏡堂、仏殿、泉殿、書院などがあつたとされる<sup>3)</sup>。その鹿苑寺は、応仁元年（1467）に始まる応仁の乱の際に西軍の陣地となり、堂舎の破壊や改変が行われた<sup>4)</sup>が、金閣は焼失を免れた。乱後には、方丈や客殿をはじめ、堂舎が次第に再建され、天文6年（1537）からは金閣の修理も行われた<sup>5)</sup>。

江戸時代に入り、『隔蓑記』を記した鳳林承章が住持であった慶安2年（1649）にも、金閣をはじめとした堂舎の大規模な修理が行われた<sup>6)</sup>。18世紀に入ると、寺の経営状況悪化の打開策として、享保18年（1733）に石不動の開帳が行われ<sup>7)</sup>、同時に金閣の公開と客殿書院の「霊宝」の観覧も行われた。それ以後、門戸が広く開かれて参拝者が増加し、明治維新によって寺地を大きく削られるものの、参拝料収入にも支えられて堂舎や庭園の維持管理が行われ、明治期には年間数万人規模の参拝者を迎え入れていたという。

昭和25年（1950）に金閣が焼失するが、2年後には再建がはじまり、昭和30年（1955）、創建当初の規模と形式に復原されて竣工となり、国内外からの参拝者でにぎわう現代に至る。

## (2) 周辺の調査 (図1)

鹿苑寺境内では、これまでに多数の発掘調査や立会調査が実施されており、本調査は24次調査となる。過去の調査については、近年刊行された、『特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園鏡湖池南池保存整備事業報告書<sup>8)</sup>』において、位置図と一覧表にまとめられているため、ここでは詳細を割愛し、今回の調査区に近接して実施された10・12・13次調査の概略をのべる。

今調査1・2・6区の北側で実施された10次調査<sup>9)</sup>では、2時期の整地層が確認されている。このうち上層の整地層には、室町時代前期の遺物が含まれ、義満の北山殿造営に伴うものと考えられており、この上面で東西に並ぶ礎石3基や土坑が検出されている。下層の整地層には、13世紀前半代の遺物が含まれ、北山第の頃のものと考えられている。この上面では、溝、集石遺構などが検出されている。また、地山面でも柱穴が検出されている。

今調査4・5区の北側で実施された12次調査<sup>10)</sup>1～3区と13次調査<sup>11)</sup>では、義満期と考えられる室町時代の整地層と西園寺期と考えられる鎌倉時代の整地層が確認されている。室町時代の整地層は約1m、鎌倉時代の整地層は約0.7mの厚さがある。12次調査1区では、室町時代の整地層の上層で江戸時代の道路状の高まりが検出されている。3区では、地山面で平安時代中期から後期頃と推測されるピットや土坑が検出されている。

### 註

- 1) 『増鏡』「第五 内野の雪」(『國史体系』第二十一巻下)
- 2) 『看聞御記』応永二十六年十二月十二日条
- 3) 『臥雲日件録抜尤』文安五年八月十九日条
- 4) 『大乘院寺社雑事記』応仁元年六月二十二日条
- 5) 『鹿苑日録』天文六年六月十九日、天文七年六月十二日条
- 6) 『隔莫記』慶安二年一月四日～六月二十一日条
- 7) 『鹿苑寺文書』享保十七年四月
- 8) 吉崎 伸ほか「第3章発掘調査」『特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園鏡湖池南池跡保存整備事業報告書』宗教法人鹿苑寺 2021年
- 9) 高橋 潔『特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 10) 丸川義広ほか『特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016年
- 11) 前掲註10に同じ

### 参考文献

- 下坂 守「鹿苑寺の歴史」『鹿苑寺と西園寺』思文閣出版 2004年
- 前田義明ほか『特別史跡特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園 防災防犯施設工事に伴う発掘調査報告書』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第15冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年

### 3. 遺構・遺物

#### (1) 基本層序 (図4)

現地表面は、参道西端（総門前）の標高が96.32m、東端（黒門付近）が93.68mで、標高差は2.64mとなり、東下がりの地形である。

基本層序は、参道に設定した1・2・4・5・6区では、現地表下0.05～0.15mまでが現代層で、その下に江戸時代の路面構築土が1～3層ある。1・2区ではその下が江戸時代と考えられる整地層Ⅰ、室町時代と考えられる整地層Ⅱとなる。4区では江戸時代路面構築土の直下が室町時代の整地層Ⅱ、5区では江戸時代路面構築土直下が地山層となる。地山は5区のみで確認した。地山上面の標高は93.95mである。

南北道路上に設定した3区では、現地表下0.2mまでが現代層で、その下が時期不明の整地層となる。

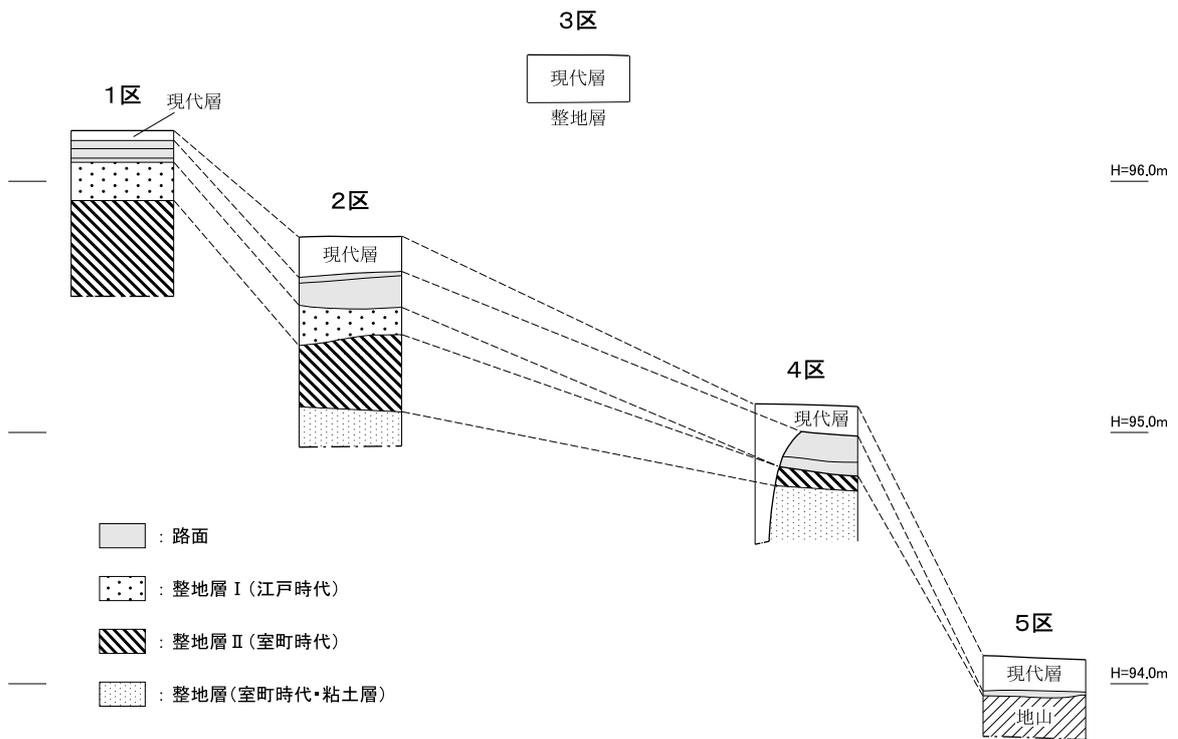


図4 基本層序柱状図 (1 : 30)

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
室町時代	整地層	攪乱断面で確認
江戸時代	路面・整地層	

## (2) 1区 (図版2・6)

1区は、総門から東へ約20mの地点に設定した。東西1.5m、南北13mの調査区である。現地表面の標高は、南端で96.2m、中央付近で96.34m、北端で96.04mと中央が高く、北と南に緩やかに下がる地形である。

地表下0.08mまでの現参道路面構築土の現代層を掘り下げて、調査区南端から約8.8mの範囲で、江戸時代と考えられる灰黄褐色細砂で構築される路面1を検出した。その下層でも黄褐色細砂層で構築される路面2を検出した。

平面的な掘り下げは路面2までにとどめたが、調査区南端の攪乱坑壁面で土層断面を確認したところ、路面2の下層で、暗灰黄色細砂層で構築される路面3を検出した。路面1～3は、いずれの層も非常に固く締まり、0.5～2cm大の礫を多量に含む。路面3の下層には、黄褐色細砂・黄褐色シルト層の江戸時代整地層が約0.15m堆積し、それ以下は、褐色シルト・黄褐色シルトの室町時代整地層となる。

## (3) 2区 (図版3・6)

2区は、総門から東へ約60mの地点に設定した。東西1.5m、南北3.5mの調査区である。

地表下0.13mまでの現参道路面構築土の現代層を掘り下げて、調査区全域で、江戸時代と考えられる黄褐色細砂層で構築される路面1を検出した。その下層でも褐色細砂層で構築される路面2を検出した。路面1・2ともに礫を多量に含み、非常に固く締まる。

平面的な掘り下げは路面2までにとどめたが、調査区南半の攪乱坑壁面で土層断面を確認した。路面2の下層には、黄褐色細砂の江戸時代整地層が約0.15m堆積し、それ以下は室町時代の整地層となる。室町時代の整地層(6層)から丸瓦1点が出土した。今回の調査で出土した遺物は、この1点のみである。

## (4) 3区 (図版3・7)

3区は、参道と不動堂道を繋ぐ南北道路上に設定した。東西3.6m、南北1.5mの調査区である。

地表下0.2mまでの現代路面構築土の現代層を掘り下げて、黄褐色細砂の整地層を検出した。江戸時代の路面は検出していない。

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク掲載遺物点数	Aランク未掲載箱数	B・Cランク箱数
室町時代	丸瓦				
合計		1箱	0点(0箱)	1箱	0箱

(5) 4区 (図版4・7)

4区は、総門から東へ約105mの地点に設定した。東西1.5m、南北2.1mの調査区である。

地表下0.1mまでの現参道路面構築土の現代層を掘り下げて、江戸時代と考えられるにぶい橙色粗砂で構築される路面1を検出した。調査区の南半分と北端は現代攪乱により削平されるため、路面の検出幅は約0.5mである。その下層でも黄褐色細砂層で構築される路面2を検出した。路面1・2ともに礫を多量に含み、非常に固く締まる。路面2の下層には、黄褐色細砂・にぶい黄橙色粘土層の室町時代の整地層が堆積する。

(6) 5区 (図版5・7)

5区は、総門から東へ約145mの地点に設定した。東西1.65m、南北1.2mの調査区である。

地表下0.14mまでの現参道路面構築土の現代層を掘り下げて、江戸時代と考えられる明黄褐色細砂で構築される路面を検出した。調査区の中央部は現代攪乱により削平され、江戸時代の路面は調査区の東西端にのみ残存する。路面直下が黄褐色粘土の地山となる。

(7) 6区 (図5、図版7)

1区の東側に設定した。東西4.4m、南北1.0mの調査区である。

地表下0.1mまでの現参道路面構築土の現代層を掘り下げて、調査区全域で江戸時代と考えられる黄褐色細砂で構築される路面を検出した。礫を多量に含み、非常に固く締まる。1区の路面1と同遺構と考えられる。路面上面の標高は、総門に向かって徐々に高くなっており、調査区西端から約0.5mの位置で一段上がる。

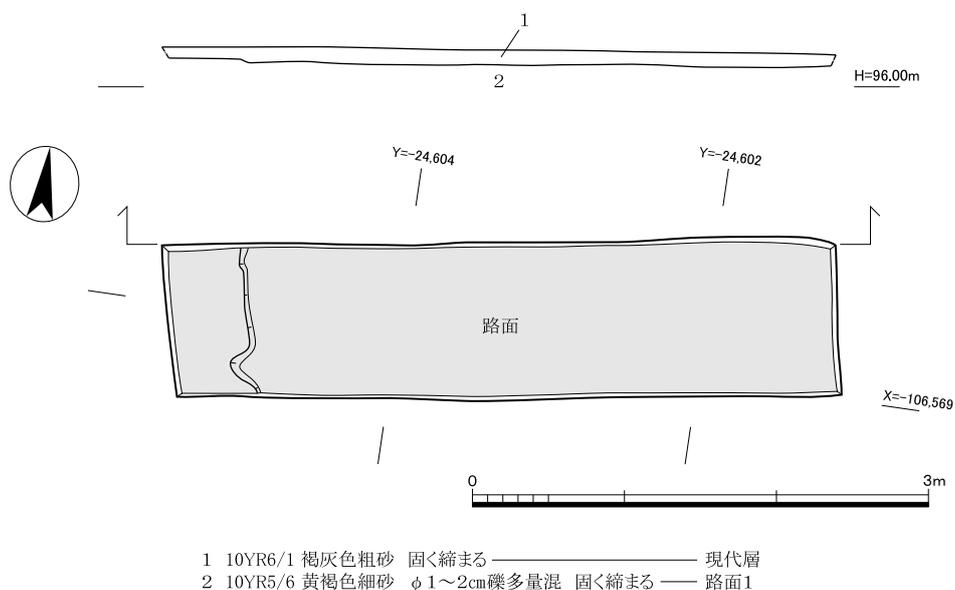


図5 6区実測図 (1:50)

## 4. まとめ

今回の調査では、現在の参道下から路面遺構や2時期の整地層を検出した。各土層からは遺物はほとんど出土していないが、整地層の堆積状況や土質が、10次調査<sup>1)</sup>や12・13次調査<sup>2)</sup>のものと類似していることから、整地層の下層は室町時代、上層は江戸時代と推測される。したがって、その上面で成立する路面は江戸時代以降のものと考えられる。各路面構築土は径5cm以下の円礫を含み、非常に固く締まる。

現在の場所へ参道が整備された時期については、明確な資料はないが、鹿苑寺に関する絵図からみると、参道が描かれているものに、正保2年(1645)の「北山鹿苑寺境内之圖」(図6)がある。参道は東から西へ伸び、北へ鉤の手に折れ、再び西の門へと続く。また、石不動と参道をつなぐ不動堂道との位置関係からも、参道は江戸時代前期には現在とほぼ同じ位置に整備されていたことがわかる。ただし、この絵図では門は1箇所のみである。なお、天明6年(1786)の「都名所図会」や寛政2年(1790)の「北山鹿苑寺絵図」(図7)には総門並びに唐門が描かれており、現在の状況と同様になっている。

今回検出した複数の路面の詳細な時期は確定できなかったが、これらの絵図や江戸時代中期以降、多数の参拝者を受け入れたという記録<sup>3)</sup>などから、江戸時代に整備を繰り返しながら、参道を維持してきたものと考えられる。

### 註

- 1) 高橋 潔『特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金閣寺)庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 2) 丸川義広ほか『特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金閣寺)庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016年
- 3) 下坂 守「鹿苑寺の歴史」『鹿苑寺と西園寺』思文閣出版 2004年 p12~14



図6 「北山鹿苑寺境内之圖」 正保2年〔1645〕（鹿苑寺所蔵）に一部加筆

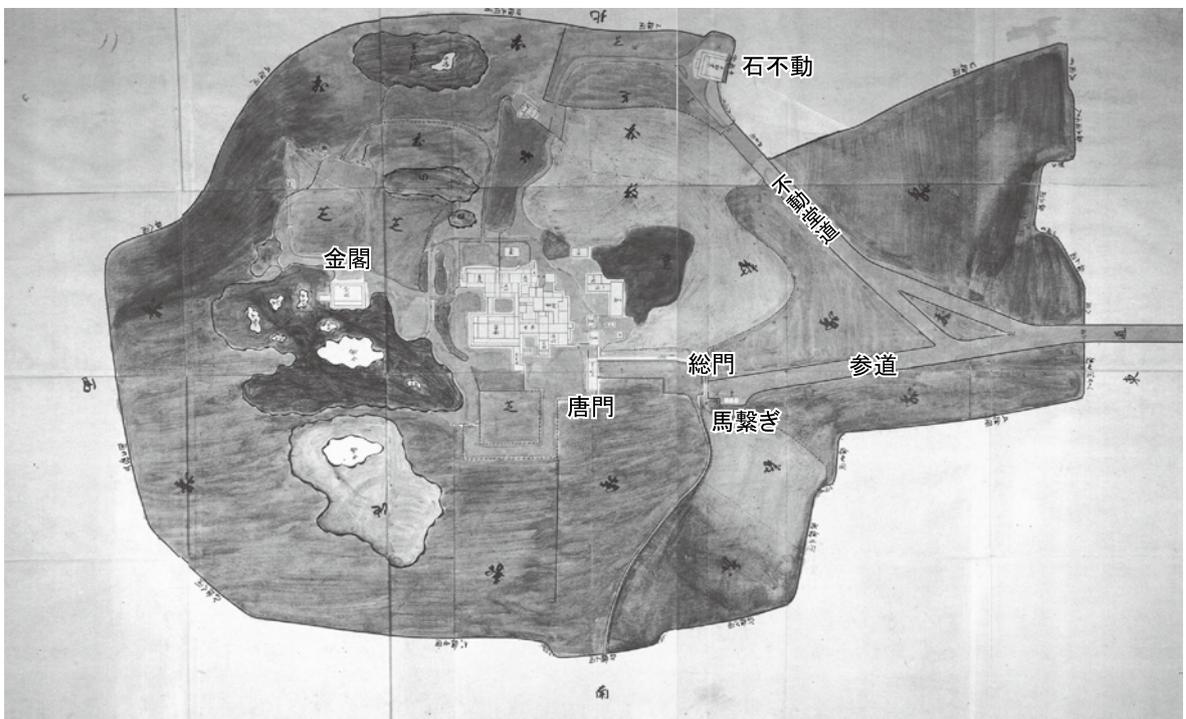


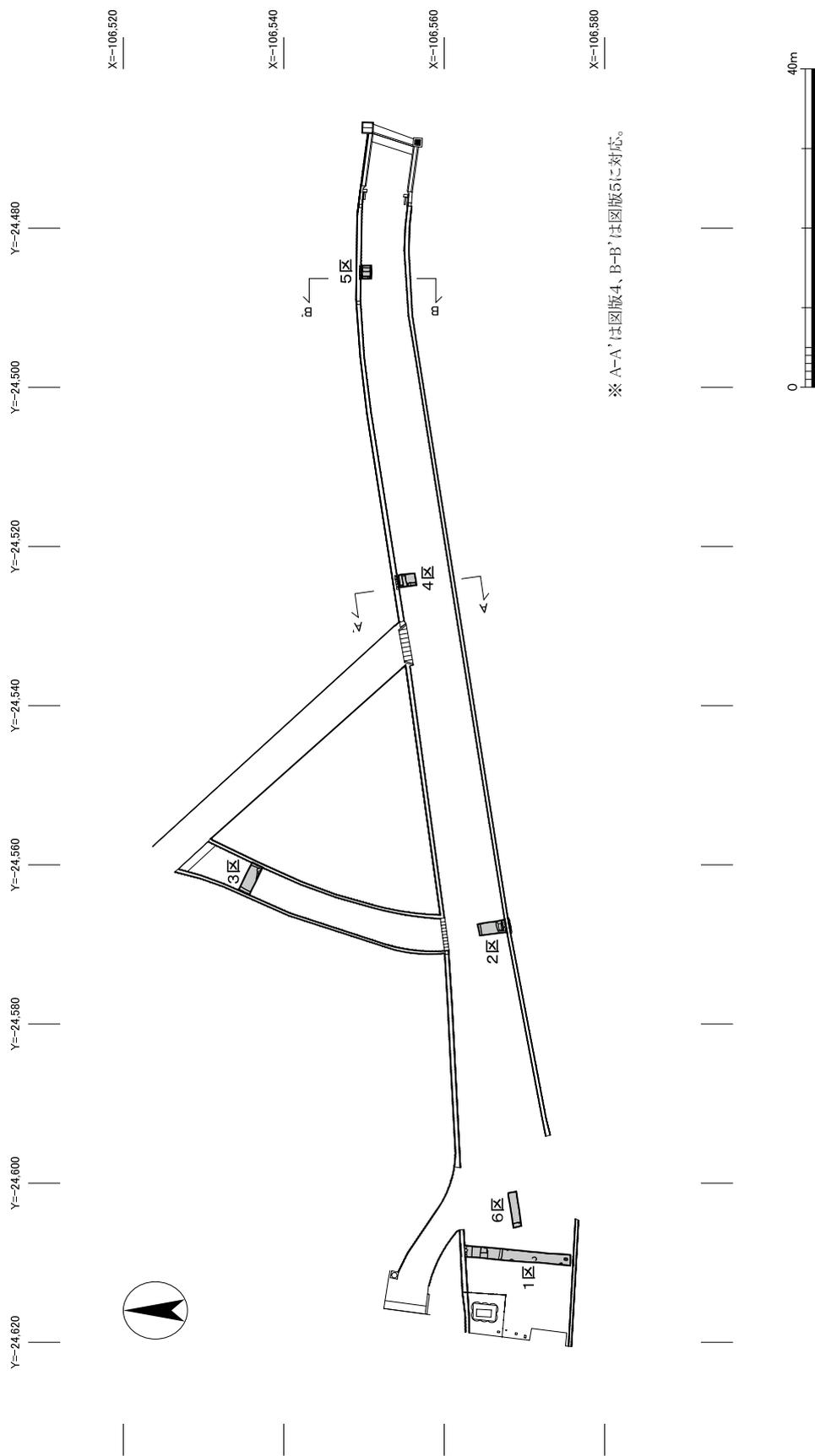
図7 「北山鹿苑寺絵図」 寛政2年〔1790〕（鹿苑寺所蔵）に一部加筆



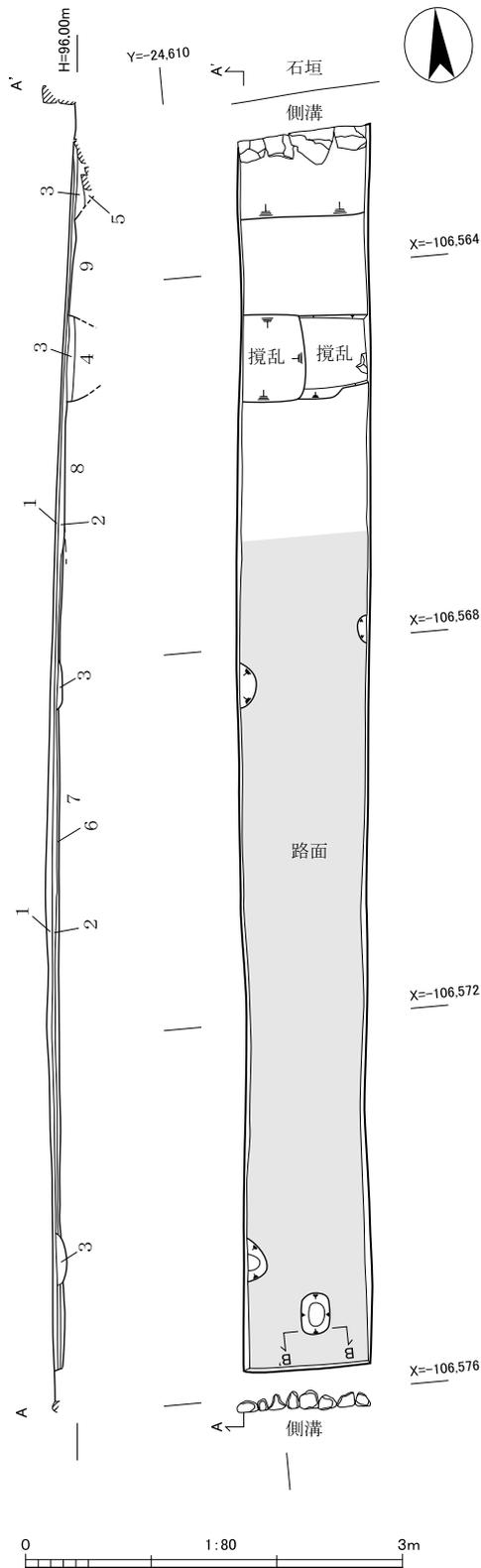
# 圖 版



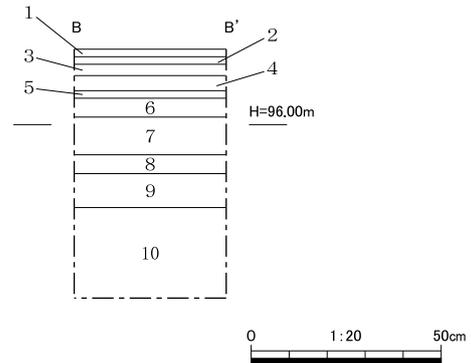
調査区配置図 (1 : 800)



図版2  
遺構



攪乱南壁断面柱状図

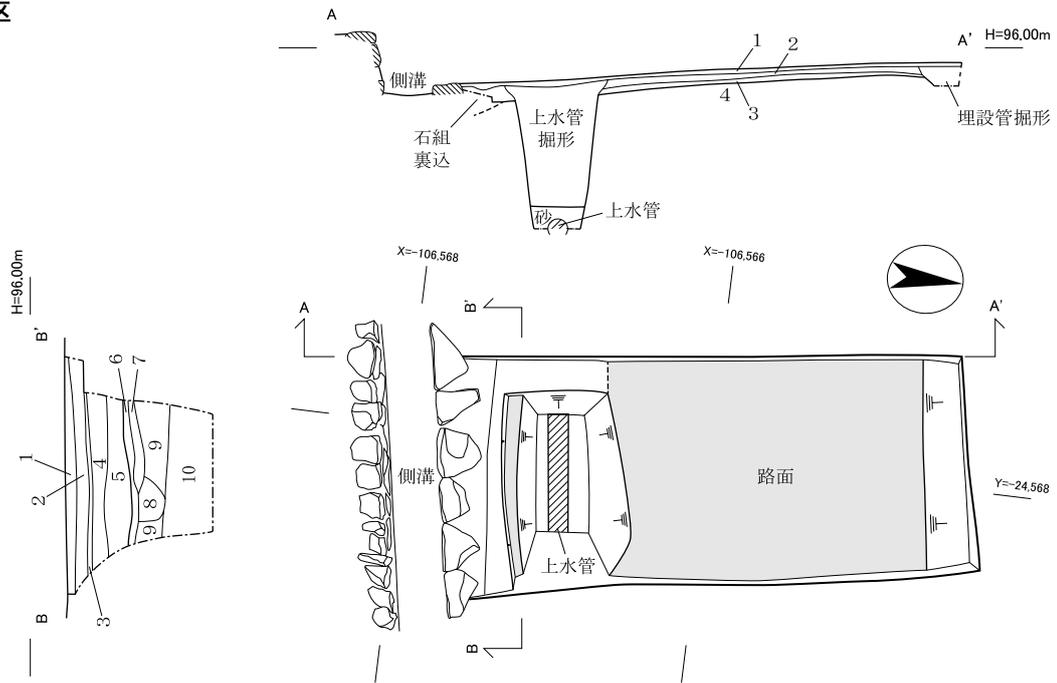


- 1 10YR6/1 褐灰色粗砂 固く締まる
  - 2 10YR6/4 にぶい黄褐色粗砂 φ1~2cmの礫混 固く締まる
  - 3 2.5Y6/2 灰黄褐色細砂 φ0.5~1cmの礫多く混 固く締まる
  - 4 2.5Y5/3 黄褐色細砂 φ1~2cmの礫多く混 固く締まる
  - 5 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂 φ1~2cmの礫多く混 固く締まる
  - 6 10YR5/6 黄褐色細砂 φ1~2cmの礫多く混 固く締まる
  - 7 10YR5/8 黄褐色シルト φ3~5cmの礫少量混 固く締まる
  - 8 10YR4/6 褐色シルト φ1~2cmの礫少量・
  - 5YR5/8 明赤褐色粘土ブロック混 固く締まる
  - 9 10YR4/6 褐色シルト φ1~2cmの礫少量混
  - 10 10YR5/6 黄褐色シルト φ1~2cmの礫混
- 現代層  
路面1  
路面2  
路面3  
江戸整地層  
室町整地層

西壁

- 1 10YR6/1 褐灰色粗砂 固く締まる
  - 2 10YR6/4 にぶい黄褐色粗砂 φ1~2cm礫混 固く締まる
  - 3 10YR7/8 黄橙色細砂
  - 4 2.5Y5/6 黄褐色細砂 レンガ混
  - 5 5YR7/8 橙色砂泥
  - 6 2.5Y6/2 灰黄褐色細砂 φ0.5~1cmの礫多く混 固く締まる
  - 7 2.5Y5/3 黄褐色細砂 φ1~2cmの礫多く混 固く締まる
  - 8 10YR5/6 黄褐色砂泥 φ1~2cm礫多量混 固く締まる
  - 9 10YR7/8 黄橙色細砂 φ2~3cm礫少量混
- 現代層  
攪乱  
路面1  
路面2  
江戸整地層

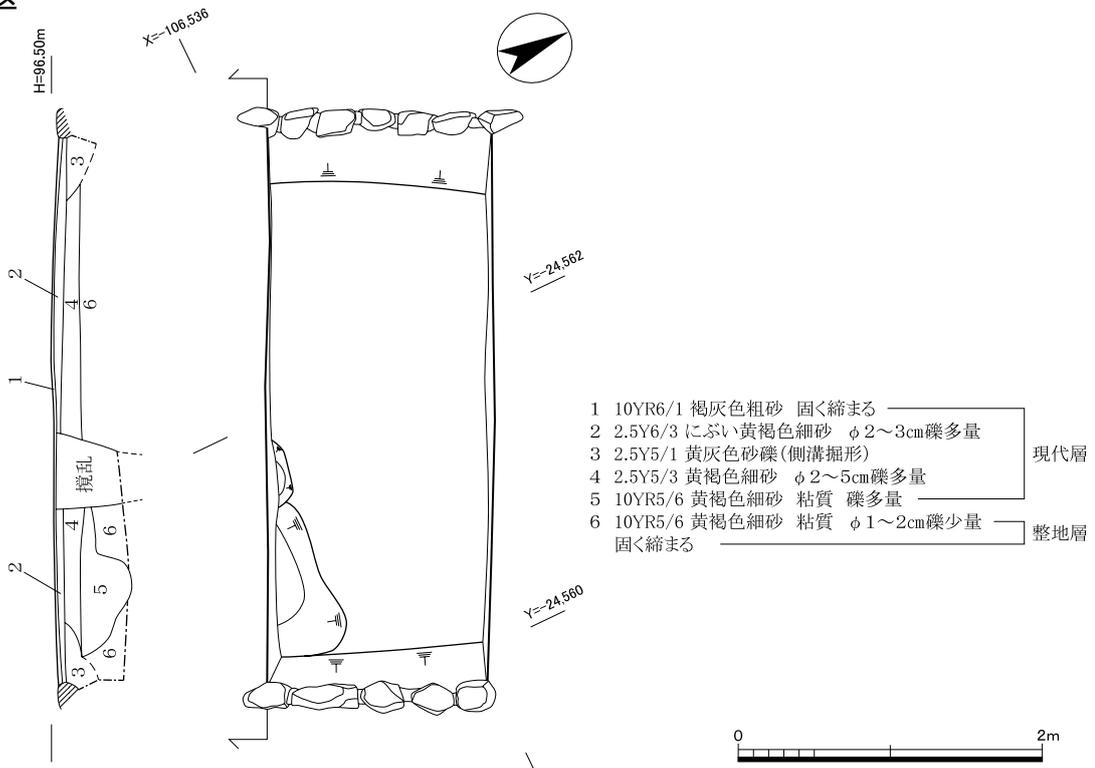
2区



- |    |  |       |
|----|--|-------|
| 1  | 10YR6/1 褐灰色粗砂 固く締まる                                  | 現代層   |
| 2  | 10YR6/4 にぶい黄褐色粗砂 φ1~2cm礫混 固く締まる                      | 現代層   |
| 3  | 10YR5/6 黄褐色細砂 φ1~2cm礫多量混 固く締まる                       | 路面1   |
| 4  | 10YR4/6 褐色細砂 φ2~5cm礫多量混 固く締まる                        | 路面2   |
| 5  | 10YR5/6 黄褐色細砂 φ2~5cm礫中量混 固く締まる                       | 江戸整地層 |
| 6  | 10YR5/8 黄褐色細砂~シルト φ3~5cm礫少量混                         | 室町整地層 |
| 7  | 7.5YR5/6 明黄褐色細砂 φ5~10cm角礫やや多量混                       |       |
| 8  | 10YR4/4 褐色細砂 φ1~3cm礫少量混                              |       |
| 9  | 10YR5/6 黄褐色細砂 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土<br>ブロック少量・φ5~10cm礫少量混 |       |
| 10 | 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土                                     |       |



3区

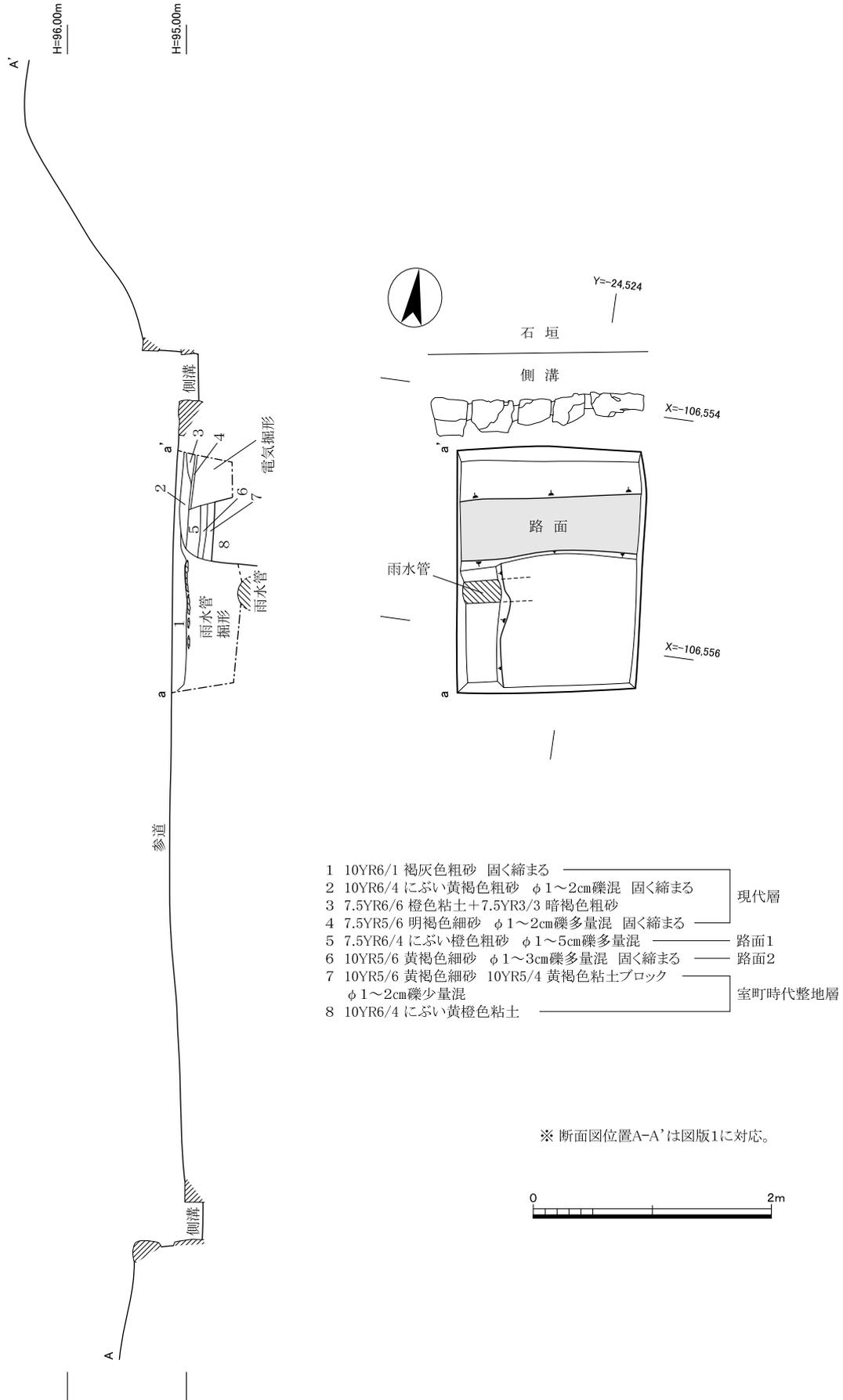


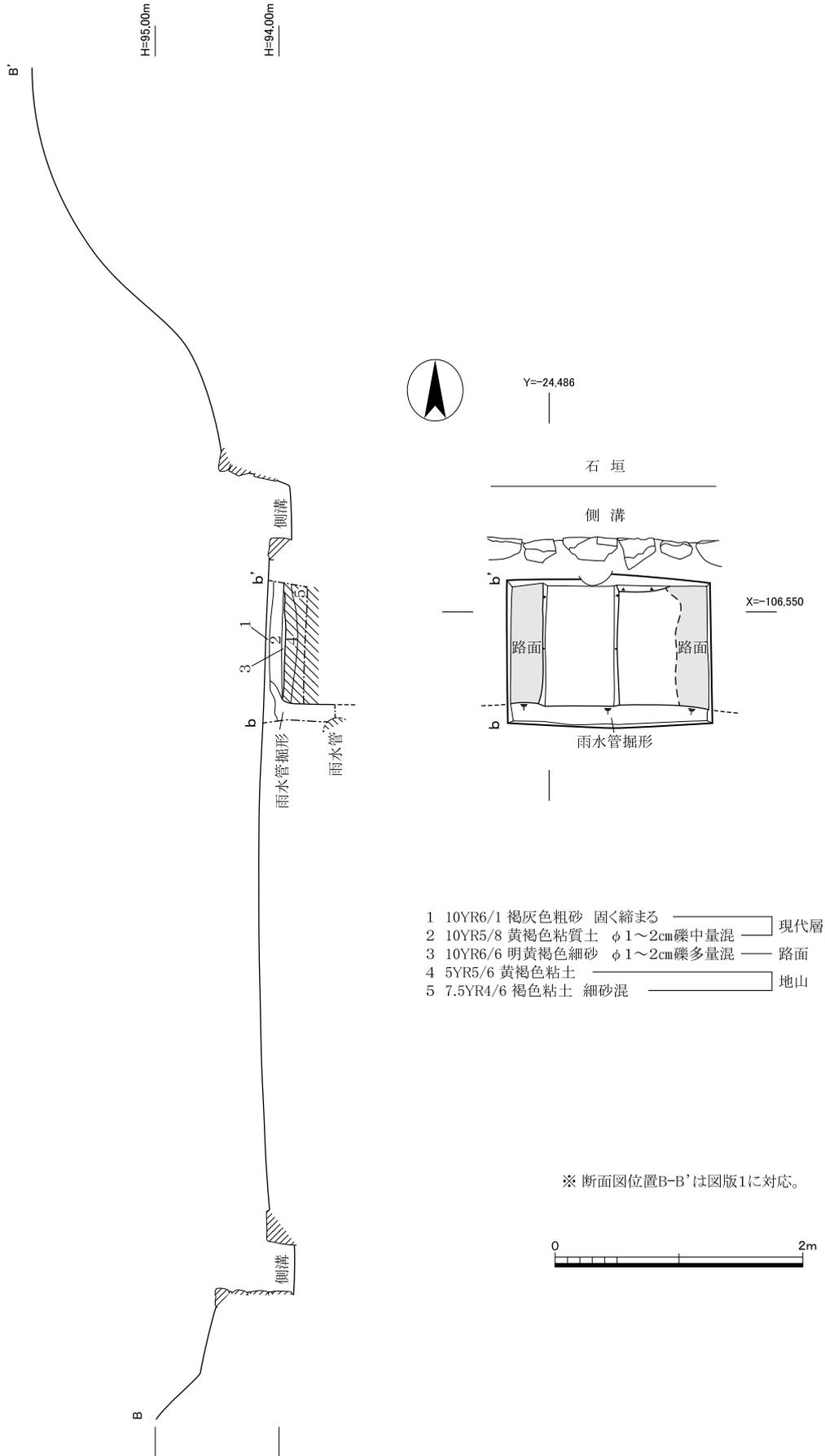
- |   |                                     |     |
|---|-------------------------------------|-----|
| 1 | 10YR6/1 褐灰色粗砂 固く締まる                 | 現代層 |
| 2 | 2.5Y6/3 にぶい黄褐色細砂 φ2~3cm礫多量          |     |
| 3 | 2.5Y5/1 黄灰色砂礫(側溝掘形)                 | 整地層 |
| 4 | 2.5Y5/3 黄褐色細砂 φ2~5cm礫多量             |     |
| 5 | 10YR5/6 黄褐色細砂 粘質 礫多量                |     |
| 6 | 10YR5/6 黄褐色細砂 粘質 φ1~2cm礫少量<br>固く締まる |     |



2区・3区実測図 (1:50)

図版 4  
遺構

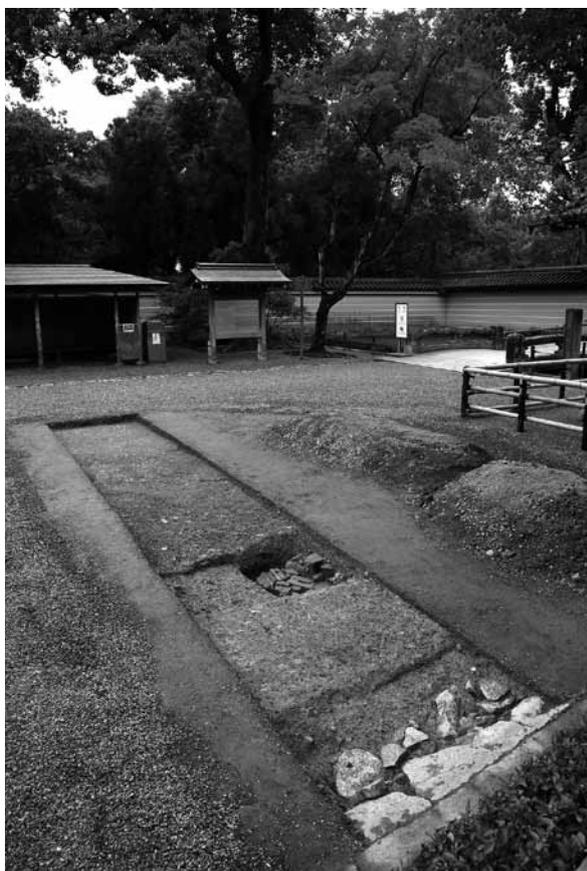




5区実測図 (1 : 50)



1 1区南半全景（東から）



2 1区北半全景（北東から）



3 2区全景（東から）



1 3区全景（北から）



2 4区全景（南から）



3 5区全景（南から）



4 6区全景（東から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	とくべつしせき・とくべつめいしょう ろくおんじ (きんかくじ) ていえん							
書名	特別史跡・特別名勝 鹿苑寺 (金閣寺) 庭園							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2020-14							
編著者名	柏田有香							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とくべつしせき・とくべつ 特別史跡・特別 めいしょう ろくおんじ 名勝 鹿苑寺 (きんかくじ) ていえん (金閣寺)庭園	きょうとしきたく 京都市北区 きんかくじちょう 金閣寺町 1番地	26100	A105	35度 02分 21秒	135度 43分 49秒	2020年6月 22日～2020 年8月4日	38㎡	参道改修 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
特別史跡・特別 名勝 鹿苑寺 (金閣寺)庭園	特別史跡 ・ 特別名勝	室町時代	整地層		丸瓦		現地表下約0.1mで 江戸時代の参道と 考えられる路面を 検出し、現参道が これから始まるこ とが判明した。	
		江戸時代	路面、整地層					

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-14

特別史跡・特別名勝  
鹿苑寺（金閣寺）庭園

発行日 2022年3月31日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961